

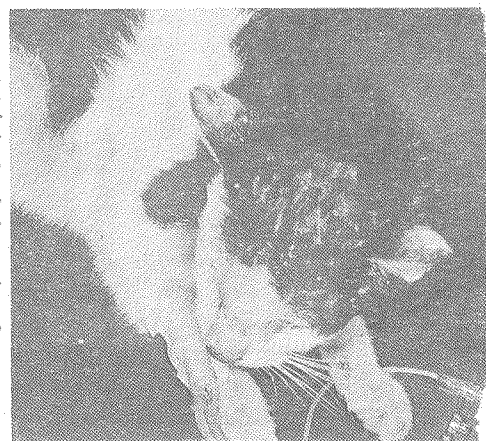
る。
「こうした捨てネコの驚異的な数字は、エイズウイルスの感染率の目安となるかもしれません。それだけノラネコが多いということですから。
2年度の負傷動物の収容は全体で753件でしたが、そのうちネ

コが531件と圧倒的な多数を占めていました。それだけネコのけんかは多くて激しいんです」(都動物管理事務所・山田奉文指導係 長)
こうしたネコ社会の息苦しさ、生存競争の激しさが、エイズ蔓延の背景となっている。

なんとか救済の道はないのだろうか？
「いまの日本のネコエイズの状況を考えると、一日も早く対策を考えなければなりませんね。
早くワクチンを！という声もありますが、インフルエンザでも、毎年ホンコン風邪だったりソ連風邪だったり、種類が違っても、ワクチンを探することは大変なんです。早急な対策は難しいでしょうね」(前出の国立大A教授)

人間のエイズも、死に至る病として恐れられているが、ネコの場合も、いまのところ有効な救済策はない。
こうネコのエイズが多くなると、ほかの身近な動物たちのエイズも気になるが、犬は大丈夫なのだろうか？
「死んだネコは位牌に名前を刻むという長嶺ヤス子さん。」

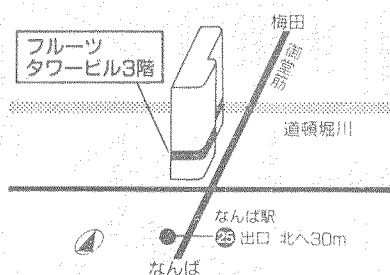
「犬のエイズも、人間には感染しません。例外は狂犬病で、ものすごく強力なウイルスなので人間もやられます」(石田助教授)
今年の干支のサルはどうなのだろうか。人間にいちばん近い動物だが。
「サルのウイルスと人間のウイルスは非常に近いですね。サルのエイズもありますが、しかし、これまでサルのエイズが人間に感染したというケースはありません」
まずペットのエイズが人間に感染することはなさそうだが、ほんとに大丈夫なのか、もう一度、石田助教授に念を押しておこう。
「ネコのエイズウイルスは、絶対人間にうつりません。ウイルスの遺伝子組織は、電子顕微鏡で見ても見分けがつかないくらいよく似ていますが、遺伝子を包むウイルスの膜が決定的に違うんです」
この点は安心していいようだがエイズ死からネコを救うにはどうしたらいいのだろうか？
「いまのところ、エイズを治す薬はないんですから、できるだけ、感染率の高いノラネコと接触させないことです。飼いネコを外に出さないことが最大の防御策でしょうね」(月刊『キャッツ』編集部)
ノラネコくんたちには悪いが、彼らの増加が日本のネコエイズを世界一にしている事実が否定できない。しかし、彼らはなにも好んでノラになったのではあるまいし、むしろ過剰なペット時代の犠牲者なのかもしれない。



不安を感じたら獣医に検査を！
約5000円で受けられる。



大阪・なんば
美容外科・婦人科・泌尿器科
島田美容外科
大阪・御堂筋道頓堀橋南詰
大阪市中央区道頓堀2・1・1 フルーツタワービル3階
院長 島田耕一
診療時間 AM11:00~PM7:00 年中無休・予約制



☎06-212-0043

24時間テレフォンサービス

☎0120-30-4107